

第 41 回講演会<2016 年 10 月 3 日開催>

朝鮮学校ではどのような教育が行われているのか ～民族教育と地域共生の取り組みについて～

金 有燮 (キンユソプ)

■講演者……金 有燮

(千葉朝鮮初級中学校校長)

■司会……林 史樹

(本学アジア言語学科韓国語専攻 教授)

1. ウリハッキョとは？

私たちは普段、朝鮮学校の事を<ウリハッキョ>と呼びます。日本語に直訳すると<ウリ>は<私たちの～>、<ハッキョ>は<学校>となります。とても大きな愛情を込めてそう呼ぶのです。

千葉の朝鮮学校は 1946 年 9 月 13 日に創立されました。在日 1 世が植民地から解放された直後、文字通り何も無い時代に彼らは子供たちに母国語を学ばせるため自力で学校を作ったのです。校舎から教科書まですべて手作りでありました。なのでここは私たちの祖父、祖母たちの魂がこもった特別に大切な場所なのです。同胞たちの故郷は朝鮮半島ですが、それでもやはり心のふるさととは<

ウリハッキョ>なのです。その意味では普通の日本の方々が思い描く<母校>の感覚とは、少し違うのかもしれませんが。

千葉に転勤してきた 3 年前の事。近くの日本学校へあいさつに行くと、そこの校長が私にこう言われました。<先生は日本語が上手ですね。>と。私が<朝鮮学校は在日朝鮮人の学校であり、私は在日の 3 世です。>と言うととても驚かれていました。

このように日本社会で朝鮮学校の存在を知らない人は思いのほか多いのが現状です。一般的な日本の方々の中で朝鮮学校について肯定的な人が 1 割、否定的な人が 1 割、その他 8 割は知らないのではないのでしょうか。そしてその 8 割がマスコミ報道によって何も本質を知らないまま、否定的な感情だけを持ってしまっているというのが現状なのではないのでしょうか。

1) 歴史的経緯

1945 年祖国解放当時、在日朝鮮人は 200 万以上いました。その後多くの同胞たちは故郷である朝鮮半島へ帰り、約 60 万の在日朝鮮人が日本に残りました。そして彼らは、子供たちを異国の地にあっても立派な朝鮮人へと育てるために学校を作りました。当時その数は 500 校、生徒数は 5 万人を超えたと言います。その時はあくまで<帰国>を前提とした教育でありました。

2) 現在

しかし現在、在日 3 世、4 世の中に帰国を前提に朝鮮学校へ送る父母はいません。みな



金 有燮氏

日本での永住が前提となっています。そして教師はほとんどが3世であり、子供たちは4世であります。在日の3世が4世に民族の魂を教えているのが今日の朝鮮学校なのです。

朝鮮学校はいま全国で64校あり、生徒数は約8000人です。

2. 特徴

1) 民族教育

・朝鮮民族学校

朝鮮学校の特徴の一つは、〈民族教育〉そのものにあります。その意味では〈朝鮮民族学校〉とも言えるでしょう。近頃は国際化やグローバリズムなどの流れの中、朝鮮学校もそのようにならなくては競争に勝てない、というような意見も聞かれます。しかしそんな時代であっても我々は、あくまで〈民族教育〉にこだわっています。学校の生徒は、どのような国際交流の場でもチマチョゴリを着て朝鮮の歌や踊りを堂々と演ずることができます。国際化すればするほど、自分は何者なのかというアイデンティティが求められるのです。そう、民族的なものほど国際的なものなのです。

・言語教育

もう一つ、民族教育の大切な要素は〈言語教育〉です。朝鮮学校では全て朝鮮語で教育が行われ、校内では朝鮮語で会話をを行います。皆、日本で生まれ育っているので当然、小学校1年生は日本語しかできません。しかしたったの1年間でほぼすべて会話はマスターし、2年生の会話はすべて朝鮮語です。この他言語の習得のスピードや教育方法には、言語学者たちも注目するほどです。そこには朝鮮語を朝鮮語で教える伝統的な独自の方法が採用されているのです。

何より我々にとって言語教育は、言葉を通して民族の魂を教えるというところに最大の意味があります。そのとき言葉はまさに〈言葉〉として我々の前に存在するのです。

・文化教育

上記と同じ理由で、朝鮮学校では文化芸術教育にとっても力をいれています。子供たちの芸術公演を見て日本の方々にはびっくりされます。全員が朝鮮の歌や踊り、民族楽器を見事にたしなむのであります。やはりこれも民族の心、魂を育てたい一心からなのです。

2) 集団主義教育

朝鮮学校の教育の特徴のもう一つの面は〈集団主義教育〉にあります。これをいうとすぐに《北朝鮮》式の全体主義として認識されがちなのですが、それはあまりに一面的な見方でありましょう。在日は異国の地で多くの差別の中、同胞たちどうし助け合い、相互扶助の中で生きてきました。その風土が朝鮮学校教育には今でも生きています。政府や自治体から何ら補助もない中、朝鮮学校が70年間、1世から4世まで続けて来られたのもモットーである〈一人はみんなのため、みんなは一人のため〉その考え方が根本にあったからです。

3) 日朝親善教育、統一教育

・反日教育？ 共産主義教育？

朝鮮学校では反日教育や共産主義教育が行われているのでけしからんと言われているようですが、本当にそのような教育をする学校に、これからも日本で永住していこうとする親たちが入るのでしょうか。ありえない話です。朝鮮学校は閉鎖的だとも言われているようですが、学校公開、授業公開を年に何度も行っているので一度見に来てほしいと思います。我々は日朝親善教育、統一教育を積極的に行っています。

何よりそのような教育を行ってほしいというのが同胞たちの希望でもあり、その要求に対し積極的に応じていかなくては学校が成り立つわけがありません。そしてそのような教育をしたいというのは、まさしく私たち教員の希望でもあります。年間を通して、日朝親善行事、地域交流行事は目白押しです。

統一教育についてわかりやすい例で端的に言いますと、運動会の時に掲げる国旗は北でも南でなく統一旗です。

- ・複眼的視点

このような教育が結果的には、生徒たちに複眼的視点を持たせ、他人の気持ちを思いやることのできるしっかりとした優しい人間を育てる教育へとつながっていると感じています。

3. 実態（危機的状況）

1) 生徒数

現在の生徒数は 74 人ですが、20 年前は 380 人。急激に生徒数は減っています。その原因は様々であります。主には以下のような点をあげる事ができるでしょう。

- ①差別政策

（経済的理由、報道、ヘイト、卒業後）

- ②少子化

- ③民族性希薄、国際結婚、多様な価値観

2) 財政状態

国庫からの補助は創立当初から今までゼロであります。その意味では＜高校無償化＞が朝鮮高校にも適用される意義はとてつもなく大きかったのであります。しかし今は完全に朝鮮高校だけが外された形になってしまっているのが現状です。かつては地方自治体から少額（私立学校の 10 分の 1 程度）の補助金が出ていましたが今はそれすらも、高校無償化から外された時期と同じ頃に、＜市民感情＞などを理由にカットされてしまいました。

そんな中、千葉市は外国人学校地域交流費として 50 万円を一昨年から支給しています。千葉朝鮮学校が行う美術展と芸術発表会を＜千葉市外国人学校地域交流事業＞として認定し、そこに補助金を充てているのであります。とても少額ではありますが、私たちが自らの運動を通して勝ち得たとても意義深い成果であります。

それでもやはり補助金のない朝鮮学校の運営はとても厳しく、教員たちの給料が滞って



司会の林先生

いるのが現状です。しかし同胞や卒業生たちによる一口千円募金運動などを通して、どうか自分たちの力で運営するために頑張っています。補助を受けられないと閉めるわけにはいかないのです。特に教員たちはいま歯を食いしばって頑張っています。教員たちは皆、朝鮮学校の卒業生。教員たちがこのような極限状況の中、子供たちのために頑張れるのも、＜一人はみんなため、みんなは一人のため＞を掲げる民族教育の賜物でありましょう。

3) 差別的状況

- ・闘い獲得してきた権利

私の学生時代はクラブ活動でも高体連などの日本の大会には出場できず、日本の大学を受けるにも大検が必要、定期券は大人料金でありました。いまこれらは、完全にではありませんが一応は解決しています。しかしこれらは全て我々の先代たちが長い間、決してあきらめずに闘い続け獲得してきたものであって、政府や自治体自らが私たちに施しとしてプレゼントしてくれたものは一つもありません。権利は闘って勝ち取らなくてはならないという事。これは私たちが経験から学んだ大切な教訓なのであります。

- ・未だ残る数々の差別

朝鮮学校を円滑に運営していくうえにおいて、残る差別はいまだ数多くあります。その

代表的なものが先述した高校無償化から朝鮮学校だけが外されている問題や、国と地方自治体からの補助金をほぼもらえていない問題です。在日朝鮮人が日本人と同じだけ税金を納めているにも関わらずです。

4. なぜ保障されるべきか

1) 施しではなく権利

国際人権規約、子どもの権利条約、人種差別撤廃条約などの国際的な条約や日本国憲法により、外国人にも基本的人権（教育権）はもちろん適用されます。日本はこの朝鮮学校問題で国連より8度も是正勧告を受けているのです。

2) 歴史的背景

在日朝鮮人は自ら日本に渡ってきた一般的な外国人とは歴史的背景が異なります。朝鮮学校はあくまで植民地支配の結果として存在するというのが現実なのであります。日本にとって在日の教育権を保障するのは、過去清算の第一歩であり当然の責務でありましょう。

3) 日本にとって必要な存在

朝鮮学校は日本における多文化教育、国際化教育のモデルとなり得るのではないのでしょうか。そしてまた戦争や植民地過去を忘れぬための平和教育の現場として、その役割を十二分に果たすことができるのではないのでしょうか。さらに外国語教育や日本にとっての民族教育においても、朝鮮学校の経験は貴重な経験となり得るでありましょう。何にせよ、異質なものどうしが互いの経験から学び合うことは両者の発展過程において必要不可欠なことなのであります。

最後に

2年前から千葉では日本人たちによる朝鮮学校を支える県民ネットワーク（略：千葉ハッキョの会）という団体が活動しています。交流会や学習会などを積極的に行い、

私たちの学校を積極的に支えてくださっているのです。ウリハッキョの子供たちに、君たちを応援してくれている日本の方たちがこんなにいるんだよと言ってあげられる事がとても嬉しいです。

朝鮮学校の女子生徒の制服は民族衣装であるチマチョゴリです。しかし15年ほど前から切り裂き事件やヘイトスピーチなどによって、現在は校内だけでしか着られないでいます。日本の街では民族衣装を着られないというのが実情なのであります。朝鮮学校女生徒の制服チマチョゴリこそ、日本の国際化レベルを図り知る事のできるバロメーターといえるでありましょう。

《炭鉱のカナリア》という言葉があります。坑内に持って行った鳥かごの中にいるカナリアの様子で、毒ガスの発生を知る事ができるように、この日本社会に人種差別や戦争の雰囲気は充滿してきたとき、先に倒れるのは他でもないこの朝鮮学校なのです。朝鮮学校が元気な社会は、マイノリティーも含めた皆が安心して暮らせる社会といえるのではないのでしょうか。日本社会において《炭鉱のカナリア》は、まさしく朝鮮学校なのです。そのようなすべての人にやさしい日本社会を共に作っていきたくと我々は切に願っています。



会場の様子